

一級河川恩智川治水緑地

平成 21 年 7 月 4 日（土）

池島・福万寺遺跡Ⅱ（その 10－1） 発掘調査 現地公開資料

財団法人 大阪府文化財センター
調査グループ 池島支所

【池島・福万寺遺跡Ⅱ（その 10－1）】

所在地 ：東大阪市池島町 5 丁目他

最終調査面積：3666 m²

事業契約期間：平成 20 年 9 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日

調査担当 ：調査グループ 池島支所

委託機関 ：大阪府寝屋川水系改修工営所

遺跡の種類 ：生産域・集落

遺跡の時期 ：縄文時代～近世

【これまでの調査】

池島・福万寺遺跡は、東大阪市と八尾市にまたがって位置しており、八尾市側を福万寺地区、東大阪市側を池島地区と称し、さらに調査時期から池島Ⅰ地区・池島Ⅱ期地区、福万寺Ⅰ期地区・福万寺Ⅱ期地区の計 4 地区に分けています。現在までに約 20 ヘクタールの面積を調査しています。当調査区の所在する池島Ⅱ期地区は平成 13 年から発掘調査を開始しており、弥生時代から古墳時代の集落跡や水田跡、縄文時代の終わりから弥生時代初め頃の木棺墓や土器棺墓、土壌墓等の墓域などを調査してきました。縄文時代から近世の土器類のほか、古墳時代の小形鏡や弥生時代の青銅器の鋳型なども出土しています。

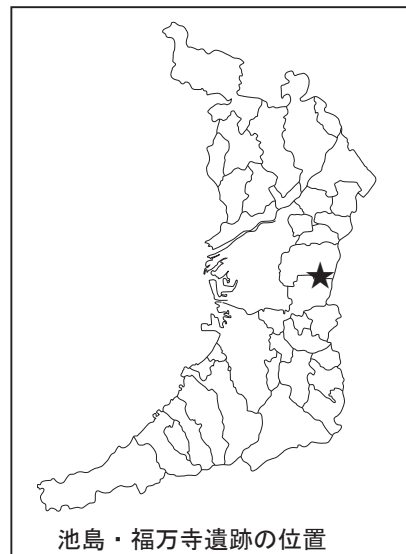
【これまでに調査された古墳時代の集落】

池島・福万寺遺跡ではこれまでに福万寺Ⅰ期地区で 4 世紀前半～6 世紀の集落跡、池島Ⅰ期地区で 3 世紀～4 世紀前半頃の集落跡が確認されています。このうち福万寺Ⅰ期地区の 5 世紀後半～6 世紀の集落で、今回確認されたような掘立柱建物や井戸などが検出されています。

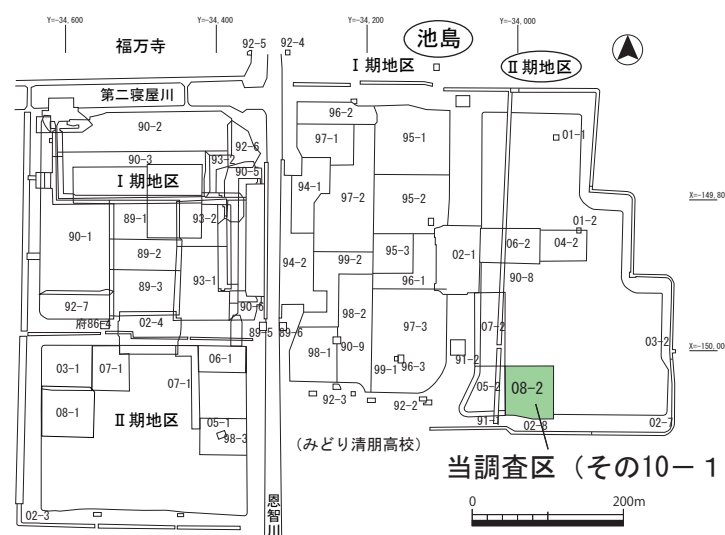
福万寺Ⅰ期地区の集落からは、生活に用いられた須恵器・土師器のほか、朝鮮半島からの渡来系の人々がくらしていたことを示す陶質土器・韓式系土器・かまど形土製品や、まつりの際に用いられたと考えられる、勾玉・管玉などの玉類、剣・斧・紡錘車などの滑石製品などが出土しています。

池島Ⅰ期地区の集落からは、銅鏡の破片や勾玉・管玉などの玉類、山陽・山陰・四国・北陸・東海などの各地域の特徴を持つ土器などが出土しています。

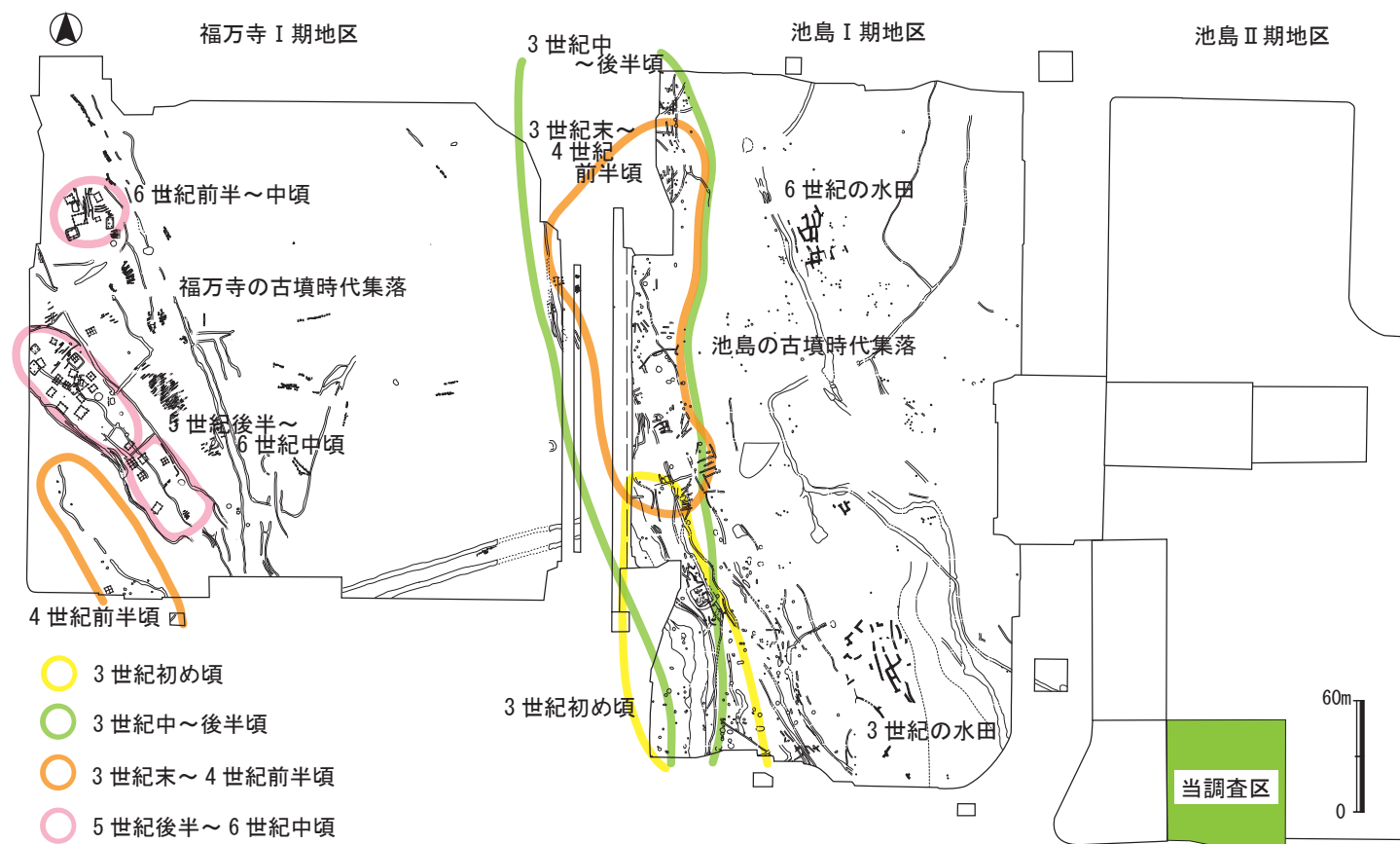
これらの出土遺物から、当時の人々の生活や習慣、活発な交流が垣間見えます。



池島・福万寺遺跡の位置



池島・福万寺遺跡 調査区位置図



池島・福万寺遺跡でこれまでに確認された古墳時代の集落と水田

（財団法人 大阪府文化財センター 2008『池島・福万寺遺跡と周辺の文化財』より引用、一部改変）

【当調査区のこれまでの調査状況】

当調査区は池島Ⅱ期地区の南端付近に位置しており、平成 20 年 10 月から調査を開始しました。これまでに鎌倉時代～江戸時代の条里坪境（土地の区割りの境界線）、水田畦畔（アゼ）、島畠（洪水による土砂を水田の中で盛り上げて造った畠）、耕作痕跡などを確認しており、古代（奈良～平安時代）に施行された条里型地割に基づく耕作地の移り変わりが明らかになりつつあります。なお、第 5 面（室町時代）から青銅製の釣針が出土しました。

【現在の調査状況】

現在は弥生時代から古墳時代の遺構面（第 10 面）を調査しています。調査区の北東側のやや地形の高い部分（微高地）では、多数の柱跡（ピット）、穴（土坑）、井戸が見つかり、また多数の須恵器や土師器などの土器が出土し、この場所に集落が営まれていたことが分かりました。柱跡には平面の形が円形のものと同四角形のものがみられ、弥生時代から古墳時代にかけての柱跡が同時に見つかっています。さらに耕作痕跡も見られ、一時期は畠地として利用されていた可能性があることも分かりました。

西側に向かって徐々に低くなる低地部分では、畦畔や水路と考えられる溝が見つかり水田として利用されていたことが判明しました。溝からも古墳時代の須恵器や土師器が出土しています。



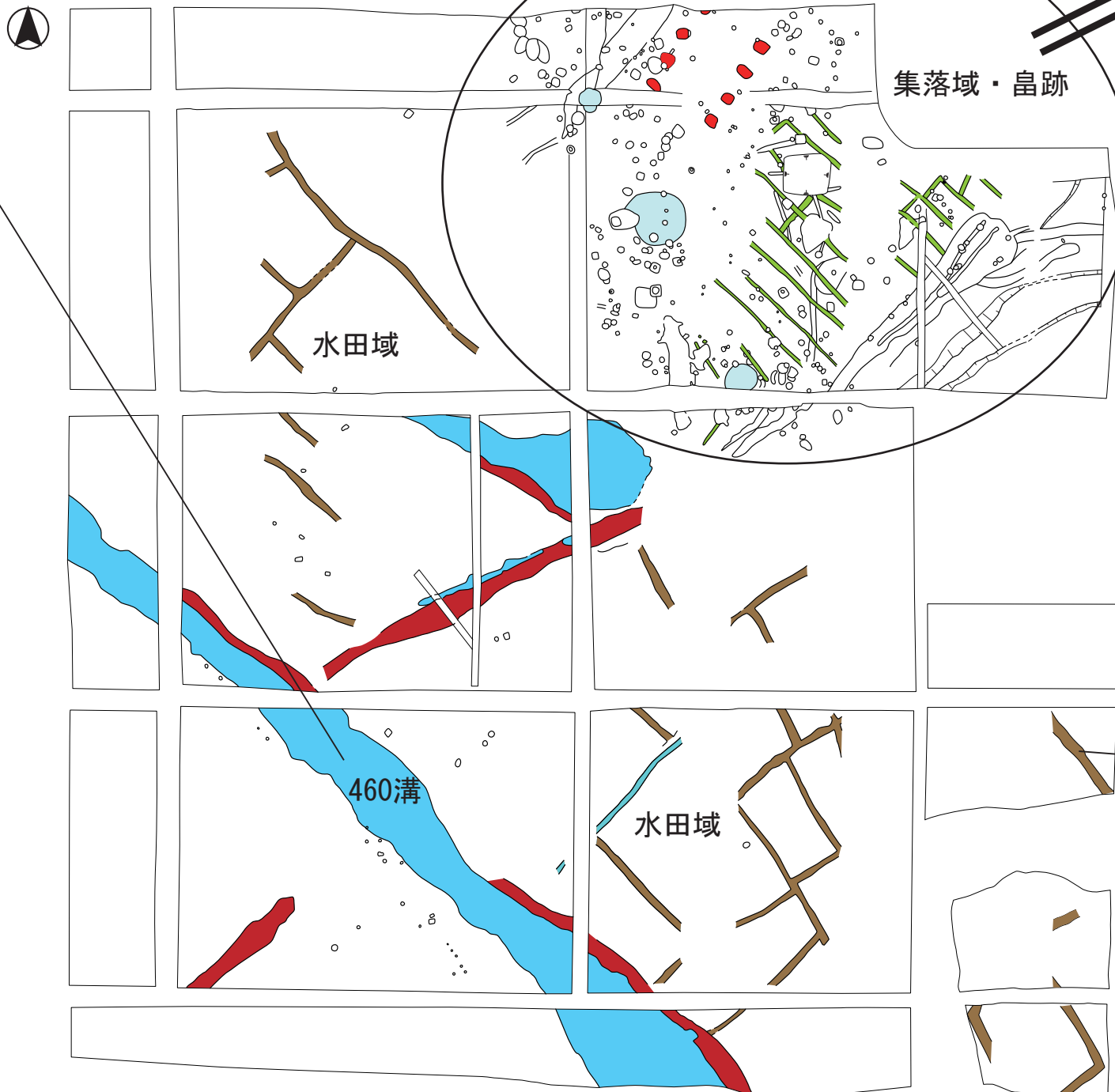
当調査区北側 集落域・畠跡 遺構検出状況（北から）



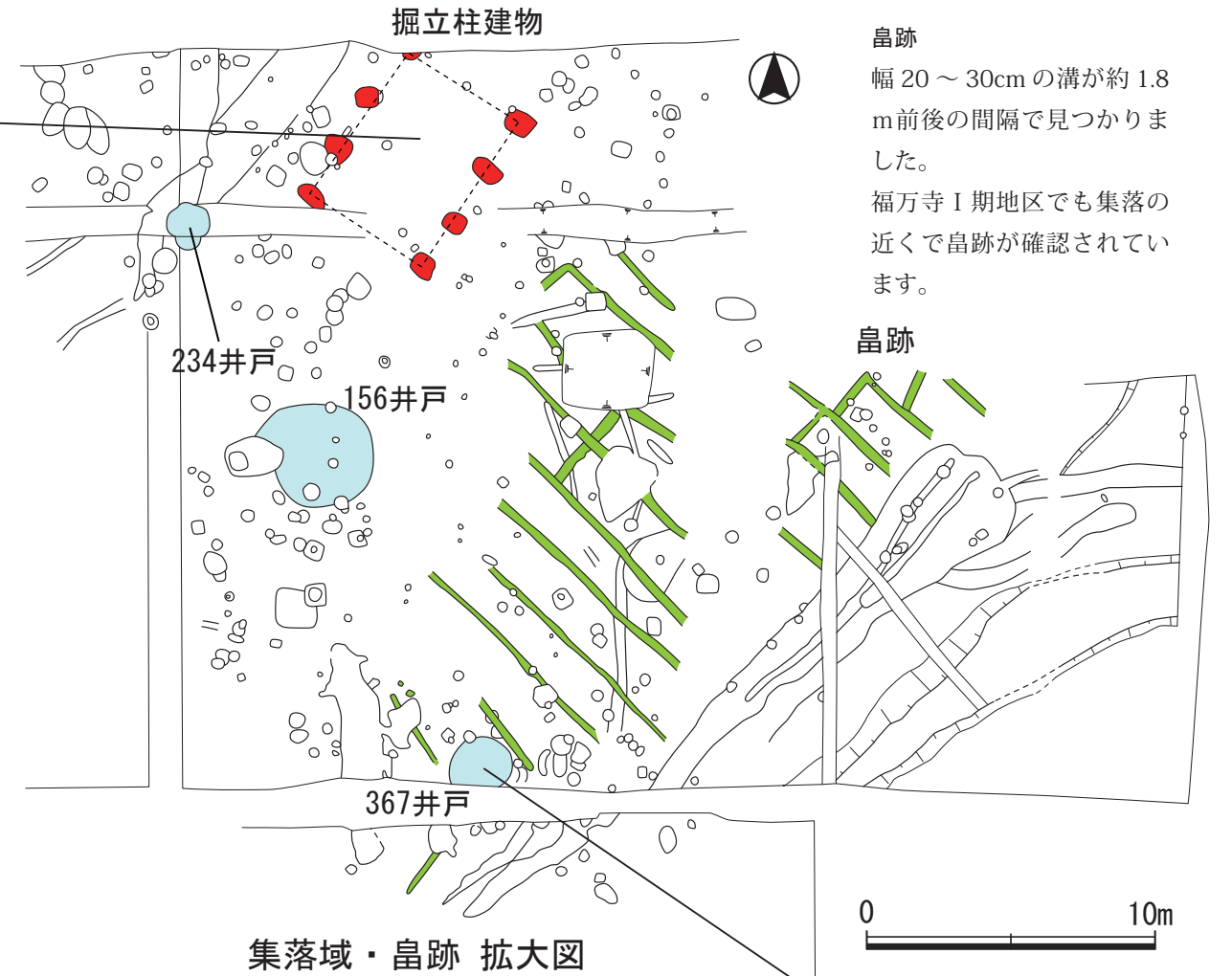
掘立柱建物
平面が四角形の柱跡（ピット）が約2 mの等間隔で並んでおり、建物の跡であることがよく分かります。



460 溝
幅約2～6 mの溝です。水田域に水を引くために造られたと推定されます。古墳時代の須恵器・土師器が出土しています。



池島・福万寺遺跡Ⅱ（その10－1）第10面 遺構図



畠跡
幅20～30cmの溝が約1.8 m前後の間隔で見つかりました。
福万寺Ⅰ期地区でも集落の近くで畠跡が確認されています。

367 井戸
直径約2 mの井戸です。底から完全な形の壺と甕が姿を現しました。



水田域
低地部分では、古墳時代の水田畦畔を検出しました。水田1枚の面積は、復元できるもので約23㎡です。現代のものと比べるとかなり小規模です。地形に合わせて、このような小さい区画の水田が造られていたと考えられます。